



## 教育だより

### 資料館企画展示紹介

―埼玉県立自然の博物館・歴史民俗資料館共催事業―

# 『武蔵野の雑木林と春の息吹』

資料館では、3月24日(土)～5月20日(日)まで、三芳町の特徴の一つである「武蔵野の雑木林」をテーマに企画展を開催します。企画展示では、雑木林の成立ちや暮らしとの関係、多様な雑木林の生き物や植物について紹介をします。



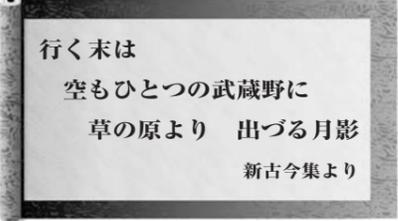
国木田独歩著『武蔵野』明治31年

## 今の武蔵野は林である 雑木林の成り立ち

「昔の武蔵野は菅原のはてなき光景をもって絶類の美を鳴らしていたように言い伝えてあるが、今の武蔵野は林である。林は実に今の武蔵野の特色といつてもよい。」と国木田独歩はその著書『武蔵野』に書いています。

武蔵野というと雑木林を連想する人が少なくないと思いますが、かつて鎌倉時代に編纂された『新古今集』や中世の『問わす語り』などの紀行文などの記録には、武蔵野は茅などが生い茂る草の原であるとしています。私たちのイメージする雑木林の武蔵野とはずいぶん異なります。私たちが武蔵野から連想する

雑木林は、江戸時代になって、武蔵野に畑作新田が開拓されて以降に形成された風景です。それまでの武蔵野は、地下水位が深く火山灰土で覆われ、栄養分や水が少ない台地で、樹木が繁茂しにくかったようです。ほぼ一面が草原であったと言われています。



「行けども行けども武蔵野は草の原であり、その地平まで続く草原から月が上る」という意味。果てしなき草原の光景が中世までの武蔵野であったことがわかる

台地上の新田開発が進むなか畑作地開墾ばかりでなく畑地の開墾と併せて木を植えて雑木林や屋敷林がつけられたのです。武蔵野の新田開発で全国的にも知られる三芳町の三富新田には「殿さまがナラの苗を分けとくださりヤマ(雑木林)をつくれた」と記録に残っています。

## 雑木林の多様な価値

雑木林と言う言葉は、現代の私たちに、なれ親しんだ言い方ですが、三芳の農家の人々は「ヤマ」と呼びます。高低差がなくてもヤマという言い方は、決して三芳町付近の言い方だけではありません。語源的には

「ヤマ」は「大きい」、「マ」は「恵み」という意味を持ちます。畑作新田の開墾において、ヤマ(雑木林)は大きな恵みをもたらすものだったのです。

雑木林は、武蔵野台地で人々が農業で暮らしていく場合に必要不可欠なもので、たくさんの暮らしに必要な恵みをもたらしてくれました。具体的には以下のような恵みや効果をもたらしてくれました。

- ①地下水を集める効果：樹木は根が深く張り地下水と共に栄養分を吸い上げ、湿潤な大地を作り上げ、井戸にも満々と水を蓄えます。
- ②風を防ぐ効果：防風林の効用です。雑木林や屋敷林は、寒い北風や嵐のような南風も防ぎます。
- ③暑さや寒さを防ぐ効果：木は養分と共に地下水を吸い上げ、葉から気化させます。その際に熱を奪い気温を下げます。冬は



民家の梁に使われた雑木林の赤松

## ⑥ 建築材としての

役割：雑木林の赤松は、建築の際の基礎固めの木材や屋根の梁材として役立ちます。屋敷林の樺や杉・檜・竹は住宅の木材として有益でした。



武蔵野の雑木林 (松本渡氏撮影)

## 鳥・昆虫・動物の繁殖 豊かな環境を生みだす

雑木林は、樹木だけではありません。様々な植物や動物にとっても大事な生息地となります。多種の山野草の繁茂、カブトムシやクワガタをはじめとした昆虫たちの繁殖、鳥たちの渡りや営巣地、小動物の食糧確保や生息の場など様々です。

## 雑木林が、強い日差しから守ってくれる

春先に雑木林の木々が芽吹きをはじめるころになると、春の木漏れ日がさし、まだ草が生い茂らない林下には様々な植物が花を咲かせます。タチツボスミレ・ニリンソウなどです。立春を過ぎる頃になると、これらの山野草は成長し、5月の初めころまでには花を咲かせ、草の背丈が伸びる頃には草の中に姿が見えなくなるのです。

ここで紹介した植物たちは強い日差しを好みません。雑木林の木漏れ日からもれる春の陽に育ち、夏の暑い日差しの頃には草の中に隠れてしまいます。このように、雑木林に守られ育つ

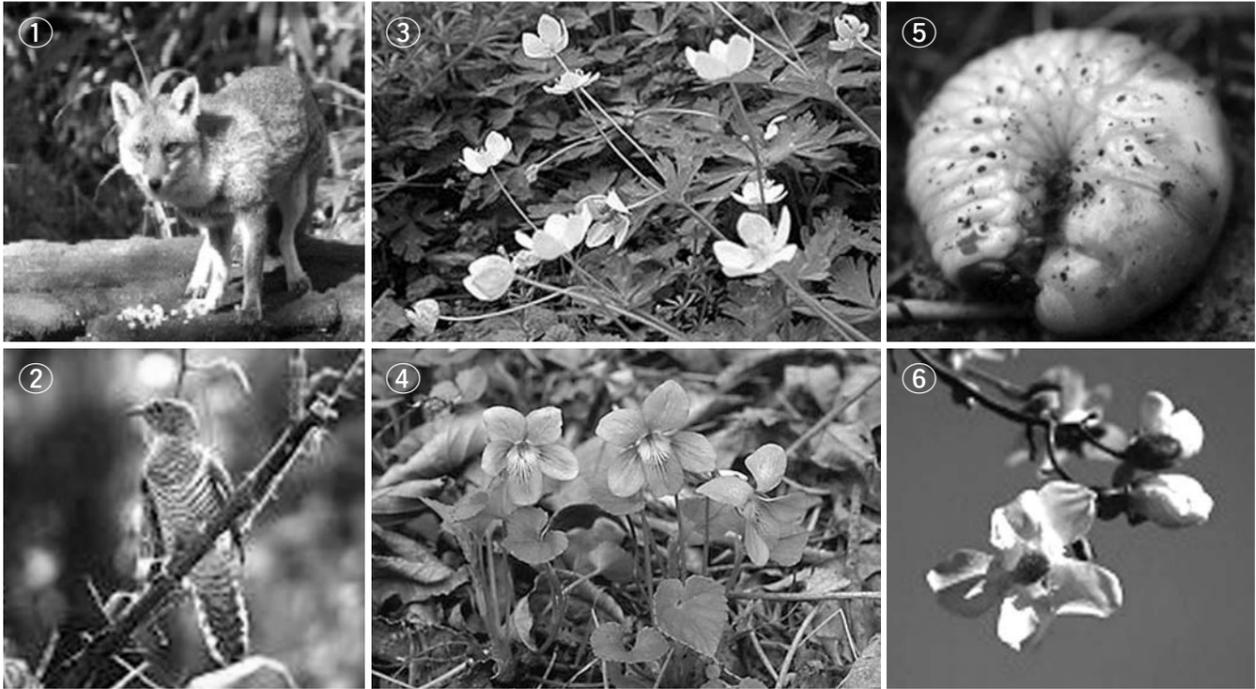
## 雑木林は小動物にとって最高のレストラン

また、秋になり雑木林に多いナラやクヌギなどの樹木はどんぐりを、またエノキの実をはじめとした様々な実りは、鳥や小動物の餌となります。林は、鳥や小動物にとって、最高のレストランです。

## 昭和初期にはキツネも 見ることができた

昭和初期の三芳町の雑木林ではしばしばキツネを見ることができたようです。また、今も5月中旬にはカッコウが渡ってきますが、雑木林や屋敷林が多く広がっている賜物といえます。近年、環境の悪化により、動物の種の減少と言いますが、しばしば報道されますが、雑木林は動物たちにとっては、生命を守ってくれる大事な環境となっています。

武蔵野の新田開発によって形成された雑木林や屋敷林は、新田に暮らす人々にたくさん恵みをもたらすばかりでなく、昆虫・植物・動物の種を増やす役割もしてきました。



① ホンドギツネ。三芳にも昭和初期まで生息していた ② カッコウ。5月中旬に来る渡り鳥 ③ ニリンソウ。4月中旬～下旬に見ることができる ④ タテツボスミレ。3月下旬～4月に見ることができる ⑤ カブトムシの幼虫。落ち葉を食べ堆肥に変えていく ⑥ こぶしの花。こぶしの里では3月中～下旬に花が咲きます

## 今

回の企画展示では、そうした雑木林の役割を紹介しながら、動物の写真や実際の標本なども数多く展示する予定です。

植物や動物、昆虫の標本資料は埼玉県立自然の博物館から借用することになりました。ぜひ、三芳町に広い面積で広がる雑木林の歴史やその役割を学習に資料館においでください。資料館の近くにあるこぶしの里とあわせて見学されたなら、きっと自然の大切さが、よく理解できると違いありません。

こぶしの里での山野草や植物の見学会を、県立自然史博物館の学芸員や専門家の案内により企画しています。ご期待ください。(広報みよし4月号で詳細をお知らせします)



三芳町立歴史民俗資料館企画展  
『武蔵野の雑木林と春の息吹』  
【期間】3月24日(土)～5月20日(日)  
【場所】歴史民俗資料館企画展示室  
【問い合わせ】☎258-6655